

卓上塗布ロボット 大きさは3分の1に

武蔵エンジニアリング セル生産方式に対応

使いやすさに配慮しながら小型化を追求。ディスペンサー（液体定量吐出装置）メーカーの武蔵エンジニアリング（東京都三鷹市、生島和正社長）は机に置きながら樹脂を基板などに塗布できるロボットを十月から販売する。従来製品に比べ大きさを三分の一程度に小さくしたのが特徴で、電機・電子関連メーカーの社員が数台の機器を置き、組み立て全般の作業工程に従事する「セル方式」に対応できる。

塗布ロボット「SHOTmini」=写真=の大きさは、横、奥行きが三十センチで、高さは四十センチ。重さは十三キログラム。基板を小さくしたり、モーターを小さくしながら力を維持するなど工夫し、同社の従来製品に比べ小型化した。

ロボットは基板に電子部品を据え付けた後に、樹脂を塗つて固定させるためなどに用いる。機器全体は小さくしたが、樹脂をノズルから塗布する際に基板などを置く部分（ワークエリア）は従来製品の三分の二程度を維持し、使いやすさに配慮した。

価格は六十九万円で、年間千台の販売を計画している。すでに中国の日系メーカーから大量受注したという。

新製品の販売効果などで同社の二〇〇〇年三月期の売上高は前期比二〇%増の三十六億円を見込む。



